志太指物について

静岡県は、木工産業の地として全国的にもたいへん有名です。なかでもここ藤枝には、昔から志太指物として伝えられてきた伝統の技術が、今も職人たちによって、大切に守られています。

指物というのは、日本独特の**指金**という物差を使い、板を組み立てて作る家具などのことで、それを作る職人のことを指物師と呼びます。志太地域では簞笥、鏡台、文庫、引出箱といった家具類ばかりでなく障子や襖、雨戸など日本家屋には欠かせない建具類も昔は指物師によって作られたのです。

志太指物師の**ルーツ**をさかのぼると、おおかたは**駿府城**をはじめ、**久能山東照宮**や浅間神社を造営するために全国から集められた職人たちにたどりつきます。そのまま静岡の地に落ち着いた人々は駿河指物の技を、藤枝に根をおろした人々は志太指物の技を、長い長い時間をかけて育て、かつ現代まで伝えてきたのです。

藤枝がその昔、東海道の宿場町として発展していたことや、地理的にも古くからさまざまな特産物が集散した商業の町であったことも、伝統の技を今に伝える重要な要素でした。

天保十三年（一八四二）の藤枝宿絵図には、十六軒もの指物師が見られますが、今はほんのわずかな桐箪笥職人と建具職人がこの技を伝えています。